

ふれあい記録

実施日：平成 28 年 7 月 28 日(1 日目)

当番者名：相川 勲 小俣悦男

コース名：独自コース 39 番 「尾瀬ヶ原」

(通し番号 第 121 回)

天 候：曇のち雨

参加者名：相川 勲、市瀬 英雄、江口 正彦、小俣悦男、神谷順子、功力満紀子、熊谷信雄、柴崎幸治、西村 寿文、根本邦子、細矢清志、宮原さち子、宮原宏至、
<ビジター>

計 13 名 (内、男性 9 名 女性 4 名) (五十音順)

交通(時刻)：<往路>JR 東京駅 6：36 発(上越新幹線 max たにがわ 401 号)上毛高原駅 7：53 着。上毛高原駅 8：00 発(タクシーとジャンボタクシーに分乗)鳩待峠 9：40 着。

コースタイム：準備体操のち鳩待峠 9：55 発 → 山の鼻 10：55 着(昼食)11：25 発 → 牛首分岐 12：05 着 → 竜宮小屋 12：55 着(合羽を着ける)13：10 発 → ヨッピー吊橋 → 温泉小屋 14：30 着。夕食 17：00 (宿泊)。雨が本降りとなったため、約 2 時間の三条の滝への往復は取りやめにして、夕食前に温泉に浸かった。三条の滝を初めて見ることに楽しみにしていた 3 名の仲間のことを考えると、当番として何とかしたかったものの、山小屋の人のこの雨では三条の滝は無理とのアドバイスに従った。

みどころ：夏の花の主演はニッコウキスゲであるが、昨年雨のため中止をせざるを得なかったことから、今年は梅雨明けの時期に合わせて 7 月 28 日～29 日とした。28 日にはドンピシャリ関東地方の梅雨明け宣言が出たが、時期をずらしたことでニッコウキスゲの開花が平年より早かったので、1 週間ほど前に咲き終わってしまっていた。あらためて山行時期の設定の難しさを思い知らされた。しかし、カキツバタ、キンコウカ、オゼコバギボウシ、オゼミズギク、オトギリソウ、食虫植物のモウセンゴケや池塘の中のオゼコウホネ、ヒツジグサなど多くの花が目を楽しませてくれたので、仲間からも尾瀬ヶ原の素晴らしさに感嘆の声があがった。

自然観察：尾瀬ヶ原は東北地方の最高峰 2356m の燧ヶ岳や至仏山等に囲まれた東西 6km 南北 2km、標高 1400m の高層湿原である。第一の特徴は大小 400 あるという池塘(ちとう)と浮島、清楚で可憐な多種の高山植物が整備された木道からまじかに観察することが出来ることである。

特記事項：○尾瀬は、福島県(南会津郡檜枝岐村)・新潟県(魚沼市)・群馬県(利根郡片品村)の 3 県にまたがる高地にある盆地状の高原であり、阿賀野川水系最大の支流只見川の源流域である。中心となる尾瀬ヶ原は約 1 万年前に燧ヶ岳の噴火活動によってできた湿原であり、ミズバショウやミズゴケなど湿原特有の貴重な植物群落が見られる。ほぼ全域が国立公園特別保護地域および特別天然記念物に指定されており、歩道以外への立ち入りが厳しく制限され、ごみ持ち帰り運動の発祥地であるなど、日本の自然・環境保護運動の象徴でもある。果てしなく続く木道を補修、整備し素晴らしい自然を守られている方々の努力を考えると頭が下がるおもいがする。

「ふれあい記録」メール送り先：小俣・相川・江口

ふれあい記録

実施日：平成 28 年 7 月 28 日(2 日目)

当番者名：相川 勲 小俣悦男

コース名：独自コース 39 番 「尾瀬ヶ原」 (通し番号 第 121 回)
天 候：曇ときどき晴

参加者名：相川 勲、市瀬 英雄、江口 正彦、小俣悦男、神谷順子、功力満紀子、熊谷信雄、柴崎幸治、西村 寿文、根本邦子、細矢清志、宮原さち子、宮原宏至、
<ビジター>

計 13 名 (内、男性 9 名 女性 4 名) (五十音順)

コースタイム：朝食 6：30 温泉小屋 7：10 発 ⇒ 竜宮小屋 8：08 着 ⇒ 富士見峠登山道分岐 8：18 着 ⇒ 長沢の上(オレンジタイム 8：50～10 分間) ⇒ 長沢の頭(竜宮小屋から 2.1km、富士見峠へ 2.1km) 9：51 着 ⇒ 富士見田代(1892m) 10：58 着 ⇒ アヤメ平(1969m) (昼食 11：05～11：40) ⇒ 横田代 12：22 着 ⇒ 鳩待峠 13：35 着 タクシー 14：30 発 ⇒ 沼田駅 15：55 着

交通(時刻) JR 沼田駅 16：10 発 ⇒ 高崎駅 16：56 着 ⇒ 高崎駅 17：03 発 ⇒ 横浜駅 19：22 着。

みどころ：○尾瀬に最初の本道が設置されたのは 1950 年代と言われている。当初、本道の目的は登山者を湿原のぬかるみから守るためのものであった。しかし 1960 年代、当時尾瀬で唯一すぐ近くの富士見峠の富士見下まで自動車が入るようになり、尾瀬地域で最も標高の高い湿原のひとつであるアヤメ平が、単線の本道しか設置されていなかったために、行き違いが出来ずに湿原に降りた多くの登山者により踏み荒らされ裸地化したことを契機に、1966 年から尾瀬のほぼ全領域で計画的に複線の本道が整備されるようになった。又、植生復元作業も同時に行われた。なお、複線部分の本道は右側通行となっている。なお、本道の設置・更新工事は、現在は福島県域では福島県によって、群馬県域では群馬県と東京電力によって、新潟県域では東京電力によって行われている。

自然観察：○一日目(28 日)の花以外にも、トモエソウ・サワギキョウ・マルバタケブキ・オオマルバノホロシ・ソバナ・オニユリ・オゼトリカブト・ヒヨドリバナなどが見られ、また、オタカラコウ・ワレモコウ・シシウド・オゼヌマアザミ・ノアザミなどは両日とも目にした。

○アヤメ平(1969m)：この高地の湿原は池塘に浮かぶ浮島や可憐な花々の様が天上の楽園と呼ぶにふさわしく、東西に至仏山と燧ヶ岳が聳える眺望と相俟って多くの登山者を魅了する。

特記事項：○温泉小屋の食事は山小屋としては上出来ではなかろうか！

●27 日夕食：ローフトビーフ・スモークサーモン・タケノコとこんにゃくの炒め物・エビと山菜の天ぷら・ポテトサラダ・漬物・ご飯・味噌汁など

●28 日朝食：鮭・海苔・ハム・ひじきの佃煮・豆腐・キノコと山菜の炒め物・豆の煮もの・漬物・ご飯・味噌汁など。